

抄遊本

世界最大の製
薬企業となるス
ミスクライン・
ビーチャム・グ
ラクソ・ウエル
カム(SKBGW)社の研
究開発担当であるタチ・ヤ
マダ氏は、大げさに言えば
命の恩人であり、互いに歩
んだ研究仲間であり、畏友
である。

「チ」 「タ」 「友」 「盟」

彼は米国でも有数
のリーダーとなり、
多くの日本人研究者
を育てた。帰国した
私のこともいつも気
にかけ、米国での人
脈の維持に手を貸し
てくれた。

ヤマダ氏は日本生
まれだが、新日本製
鉄の顧問だった父親
の方針で中学まで日
本のアメリカンスク
ールに通い、その後
スタンフォード大、
ニューヨーク大医学
部へと進んだ。米国
立衛生研究所(NIH)
を経て、一九七〇年代

後半に私が勤務していたカ
リフォルニア大ロサンゼ
ルス校(UCLA)内科に消
化器専門医として移ってき
た。

ある日の主任教授会議で
のこと。私が下血で倒れて
救急に運ばれた時、消化器
専門医の呼び出しで駆けつ

国際舞台で活躍することを
日本人として誇らしく思っ
ている。(くろかわ・きよ
し 東海大学医学部長)